

前立腺がんを考える

福島県立医科大学医学部 泌尿器科学講座

●**前立腺とは**：前立腺はぼうこうのすぐ下に存在している男性特有のクルミ大の臓器で、精液の一部を作っています。前立腺に発症する病気としては、前立腺肥大症や前立腺炎などがありますが、中高齢者において増加傾向にある病気が前立腺がんです。2017年以降、わが国において男性のがんの中で一番多いのが前立腺がんです。

●**原因・初期症状**：前立腺がんのリスク因子として、前立腺がんの家族歴、加齢などが挙げられていますが、原因ははっきりしていません。一般的に早期の前立腺がんでは症状が出にくく、前立腺がんが進行すると骨に転移することが多いため、腰痛などの骨関連症状によって見つかることも少なくありません。したがって、特に50歳以上の男性の方は、前立腺がん検診を受けられることをお勧めします。

前立腺がん検診は、血液検査により「前立腺特異抗原(PSA)」を測定することで行うことができます。前立腺がんは、早期の転移のない状態で見つかった場合の5年生存率はほぼ100%に対して、転移のある状態で見つかった場合の5年生存率は約60%です。したがって、検診による早期発見が重要

です。基準値を超える場合(一般的には4ng/mL以上)は、泌尿器科に受診して精査をすることをお勧めします。

●**最新医療**：前立腺がんと診断された場合、転移がなければ、手術、放射線治療、薬物治療、監視療法など、治療法の選択肢が幅広いのが特徴です。特に手術を選択された場合は、開腹手術や腹腔鏡手術に比べて、ロボット支援手術が、患者さんの負担が少なく、術後の尿失禁や勃起不全などの合併症も軽減される標準手術ですので、ロボット支援手術を選択されることをお勧めします。

転移がある前立腺がんの治療は、薬物治療が中心となります。薬物治療は、男性ホルモンを抑えるホルモン薬を中心とした治療になります。最近では新しいホルモン薬の開発が進み、治療薬の選択肢の幅が広がりました。ホルモン薬に抵抗性を示す前立腺がんの場合(去勢抵抗性前立腺がん)、抗がん剤、遺伝子診断をもとにした分子標的薬、放射性薬剤など用いた治療を行うこととなります。



小島 祥敬 教授